

平成 2 5 年度

運営に関する計画

自己評価

(最終評価)

大阪市立横堤中学校

平成 2 6 年 2 月 1 3 日

目 次

1	学校教育目標	P.	1
2	総括シート	P.	2
3	目標別シート		
	学力の向上		
	教務部	P.	4
	国語	P.	5
	社会	P.	6
	数学	P.	7
	理科	P.	8
	英語	P.	9
	音楽	P.	10
	美術	P.	11
	技術家庭	P.	12
	道徳心・社会性の向上		
	人権・特別支援教育委員会	P.	13
	生活指導部	P.	14
	健康教育部	P.	15
	進路指導委員会	P.	16
	1年	P.	17
	2年	P.	18
	3年	P.	19
	健康・体力の保持増進		
	保健体育科・体育行事委員会	P.	20
	生活指導部	P.	22

評価基準

- A：目標を上回って達成した
- B：目標どおりに達成した
- C：取り組んだが目標を達成できなかった
- D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

平成25年度 大阪市立横堤中学校 学校教育目標



<学校教育目標>

- I 自ら考え、自ら学ぶ、知性豊かな生徒を育成する。
- II 自然や人間を愛する、情操豊かな生徒を育成する。
- III たくましい体力と充実した気力ある生徒を育成する。
- IV 基本的生活習慣を実践する生徒を育成する。

<総合目標>

人間尊重の教育を基盤に、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図るとともに、生徒一人ひとりのよさや可能性を伸ばすことにより、知・徳・体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ。

<具体的目標>

- 1 互いに違いを認め合い、思いやりを持って協力し合う、いじめを許さない集団づくりを行う。
- 2 確かな学力の定着を図るとともに、一人ひとりの個性や創造性を伸ばし、自ら学び、自ら考え、問題解決できる力を育てる。
- 3 生涯にわたり運動やスポーツに親しみ、心身ともに健康で活力のある生活が送られるよう、自ら運動に取り組む習慣や能力を育てる。
- 4 教育相談活動を充実させるとともに、家庭との連携をより密にして、自ら規律ある生活習慣が実践できる力を育てる。
- 5 小学校との連携を密にして、一貫性のある効果的な指導に努める。

1 学校運営の中期目標

【視点 学力の向上】

- ① 平成 27 年度全国学力・学習状況調査における平均正答率を、知識・活用とも昨年度より 5 ポイント向上させる。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を 60% 以上にする。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の向上】

- ① 平成 27 年度全国学力・学習状況調査における「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の保護者アンケートにおける「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を 80%にする。（マネジメント改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣調査における全種目の平均の記録を全国平均以上にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 平成 27 年度末の生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%にする。（カリキュラム改革関連）

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ① 定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 24 年度より 10%減少する。（カリキュラム改革関連）
- ② 生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）

【視点 道徳心・社会性の向上】

- ① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%にする。（カリキュラム改革関連）
- ② 保護者アンケートにおける「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を平成 24 年度より向上させる。（マネジメント改革関連）

【視点 健康・体力の保持増進】

- ① 各学年の体力テストの全種目の平均の記録を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）
- ② 生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%にする。（カリキュラム改革関連）

3 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

- ・ 定期テスト、実力テストにおける平均正答率3割以下の生徒は、3年生において減少傾向にあるものの、1・2年生では十分に成果をあげることはできなかった。
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果において、平均正答率3割以下の生徒の割合を全国と比較すると、国語A、数学Bで下回ったが、国語B、数学Aで上回った。また、平均正答率3割以下の生徒の割合の全国比率との差を平成21年度と比較すると、数学では大きな成果をあげており、国語においても知識に関する問題では成果が見られた。さらに、無回答率は全国平均を下回り、基礎的な学力の定着が進んでいることが伺われる。
- ・ 1月に実施した生徒アンケートにおいて、「授業がわかりやすい」という設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が71.4%であった。また、保護者アンケートにおいても「お子様は、授業がわかりやすいと言っている」という設問に対し、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者が65.5%で、昨年度の結果よりも20.4%上回った。
- ・ 習熟度別少人数授業をはじめ、個々の生徒の課題やつまずきを把握し、学習内容や教材、授業形態を工夫してきたことや、若手教員を中心に研究授業等に取り組み、個々の教員の授業力が向上してきたことにより、徐々にその成果が現れてきている。

【視点 道徳心・社会性の向上】

- ・ 1月に実施した生徒アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒が70.5%、3年生で実施した全国学力・学習状況調査の結果においては75.5%であった。また、保護者アンケートにおいても「お子様は、将来の夢や目標を持っている」という設問に対し、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者が69.1%、「学校は、将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」という設問に対し、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者が69.5%で、昨年度の結果よりも17.1%上回った。
- ・ 保護者アンケートにおいて、「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した保護者の割合が80.4%で、昨年度の結果よりも17.1%上回った。
- ・ 今年度4月より、横堤中学校の生徒であることを自覚し、規律正しく、立派に行動しえるように「横堤中学校生徒10カ条」を掲げ、生徒に基本的生活習慣の定着や規範意識を高められるよう取組を進め、学期ごとの振り返り調査も実施してきた。さらに、大学教授や企業、地域の人材を活用した出前授業や体験的な学習に重点を置いて取り組んできた。これらの取組により、個々の生徒の基本的な生活習慣の改善が見られるとともに、将来に夢や目標を持つ生徒が増加した。

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・ 全国体力調査の結果において、昨年度の本校の結果と比較すると、男子では体力合計点を含め5種目で下回り、女子では4種目で上回ったが体力合計点は昨年度と変わらなかった。全国平均と比較すると、女子では体力合計点を含め5種目で上回ったが、男子では体力合計点を含め6種目で下回った。
- ・ 生徒アンケートにおいて、運動会に「積極的に参加できた」と回答した生徒が90.9%、大学教授出前授業で「授業に興味を持った」と回答した生徒が84%、トップアスリートによる水泳特別授業で「楽しかった」と回答した生徒が85%であった。
- ・ この5年間を比較すると、男子では、昨年、今年と体力合計点が41点を越え全国平均との差は小さくなり、持久力が飛躍的に伸びた。女子では、常に全国平均を上回り、走力が年々高まっている。この2年間、体力向上に取り組んできた成果が現れてきている。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】 ① 定期テスト、実力テストにおける平均正答率 3 割以下の生徒を、いずれの学年も平成 24 年度より 10%減少する。（カリキュラム改革関連） ② 生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連）	B

< 教務部 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基礎学力の向上】 習熟度少人数授業など指導方法の改善を行うことで、基礎・基本的な学習内容の確実な定着を図る。 指標・定期テスト、実力テストにおいて平均正答率 3 割以下の生徒数を前年度より減少させる。	B
取組内容②【授業内容の改善】 授業内容を身近な問題と関連させ、生徒が興味関心を持つ教材を作成することにより、授業内容を改善する。 指標・生徒アンケート調査で「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を前年度より増加させる。	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ① 3 年生では平均正答率 3 割以下の生徒数の減少を実現しており年度目標を達成しつつあるが、1・2 年生では十分とはいえなかった。 ② 授業改善面では、生徒アンケートにおいて、昨年度と今年度との比較において「授業はわかりやすい」が 6.8%から 10.6%に、「どちらかというわかりやすい」が 38.3%が 54.9%に増加し目標を達成することができた。	
【取組内容】について ① 3 年生は習熟度少人数授業を積極的に活用した効果もあり、ほぼ全教科で若干ではあるが、平均正答率 3 割以下の生徒数を前年度より減少させることができた。また、1、2 年生においては学習内容が難しくなることもあり、きめ細かな小テストや復習的な学習の取組等を行っているが、全体的に平均正答率 3 割以下の生徒数を前年度より減少するには至っていない。 ② 「わかりやすい授業」の実現のために、各教科において生徒が興味関心をもつような教材作りや授業の改善を行った。また「わかりやすい授業」作りに向け、研究授業週間などを設けるなど相互の授業改善に組むことができた。さらに少人数授業等を行うことで、生徒一人ひとりの学習上のつまづきに対応する機会を増やすなど細かな指導を行った。	

今後への改善点
<ul style="list-style-type: none"> 3年生においては習熟度少人数授業を引き続き積極的に活用し、更なる基礎・基本的な学習内容の定着を図ると共に、1, 2年生においては各教科において平均正答率3割以下の生徒数の減少にむけた効果的な取り組みを図っていく必要がある。 「わかりやすい授業」の実現のために、視聴覚機器の活用や体験的な取組を通しての理解を深める機会を増やす等、各教科において積極的に授業改善を図っていく必要がある。

< 国 語 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 基礎学力の定着 】</p> <p>基礎的事項を反復させる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートを取り方についての指導と年間5回以上の点検する。 ・プリントや副教材を活用した漢字・語句の反復学習を徹底する。 	B
<p>取組内容②【 授業内容の改善 】</p> <p>教師の授業力向上のための研修・研究を実施する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の相互参観の機会を前年より多くとる。 ・小学校との教科連携を深めるための研修の機会をもつ。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>各学年ともに、正答率3割未満の生徒が微増している。学習意欲に欠けるところが大きいと思われる。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 各学年ともに、テスト前を中心にノート点検を行ったり、授業プリントをこまめに点検し、きめ細かく指導した。また、漢字のワークやプリント、漢字テスト、長期休みの課題などで漢字、語句を確実に練習し、習得させるよう指導している。全国学力状況調査の結果からも、この数年間は国語の学力が向上していることが分かる。現在の取組を継続していきたい。</p> <p>② 小学校との教科連携も含め、各種研修会に積極的に参加した。また、相互の授業見学や授業研究、研究授業への参加も積極的に行い、授業力向上に努めた。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 到達度評価の本格実施に向け、更なる評価のつけ方への研究を行う。 	

< 社 会 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 基礎学力の定着 】</p> <p>基本的な学習事項を定着させるとともに、自主学習教材を活用し学習意欲を高める。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、再テストを繰り返し行う。 ・自主学習のための各単元ごとのまとめプリントやワークを活用する。 	B
<p>取組内容②【 授業内容の改善 】</p> <p>発問や提示資料を工夫して、興味関心を持たせる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料や地図、写真など、視覚的に印象づけるように工夫する。 ・授業の発問を工夫し、基本語句を繰り返し提示することにより基本的な語彙を定着させる。 ・確認プリント、まとめプリント、ワークや繰り返しノートなどを利用し、授業ならびに家庭学習で、繰り返し演習させる。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>各学年とも、正答率3割未満の生徒が増えている。学習意欲が低く、積極的に授業参加できない生徒が1・2年生でみられる。また、家庭学習（宿題）が不十分で基本語句の定着ができていない生徒がいたことが要因であると考えられる。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 1・3年においては、こまめに小テストを実施し、基礎的な語句の定着を図った。</p> <p>2年においては、小項目ごとに確認プリントを行ったり、基本語句の漢字練習プリントをして、歴史用語の定着を図った。</p> <p>② 1年においては、授業プリントの中に分布図やグラフを入れることで資料を多く活用し、地図からイメージをとらえられるように工夫している。</p> <p>2年においては、資料を多く活用して、各時代のイメージをとらえられるように工夫している。</p> <p>3年においては、生徒自身に考えさせたり、新聞を活用したりして身近な課題をとらえられるように工夫している。また、入試対策として復習プリントも活用している。</p> <p>なお、各学年とも、ワーク等を活用し、授業および家庭学習でくりかえし演習している。</p>	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習（宿題）や小テストに向けた学習を積極的に行うものと、そうでないものの差が大きく学習意欲の低い生徒に対するアプローチに工夫がいる。 ・ 1年生では、初めてπ型に取り組んだ。地歴をどのように分割するのが効果的か、検討が必要である。 	

< 数 学 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基礎学力の定着】 個々の学習進度に応じた支援を行い、基礎・基本の定着を図る。		B
指標	・ 単元ごとの復習プリントや問題集を用い、基礎的な内容を反復練習させる。 ・ 家庭で自主学習ができる力を養うため、家庭学習用プリントを作成する。 ・ 基本的事項の定着を図るため、定期テスト前に放課後学習会を行う。	
取組内容②【授業内容の改善】 教材やテストを工夫することにより、数学への興味関心を高める。		B
指標	・ 習熟度別少人数分割授業を定期的実施し、基礎・基本の定着とともに段階に応じた発展的な内容にも取り組む。 ・ 観点別評価をふまえた、定期テスト、実力テストおよび小テストを作成する。 ・ 数学への興味関心を高める身近な題材を教材にする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について 定期テストにおける平均正答率30%未満の生徒の割合は、昨年度同時期と比べて大きな差はなかった。		
【取組内容】について ① 単元ごとに復習プリントや問題集などの教材を用いたり、小さな単元ごとに小テストを実施したりすることで、基礎的な内容の定着を図ってきた。 家庭学習用の教材を作成し活用することで、家庭での自主学習の習慣をつけさせてきた。 これらの教材の精選を行い、より生徒一人ひとりの理解度の応じた学習環境を整えられるようにしていく。 ② 習熟度別授業では、生徒の理解度に応じて3分割を行い、個々の生徒の力に合わせた授業が展開できるようにしてきた。 観点別評価においては、定期テストのみで図ることが難しいため、小テストや授業教材を用いて、定期テストで図りにくい分野を補うようにしてきた。 各単元の導入などで、教材を工夫することで、生徒の興味関心を高めるようにしてきた。		
次年度への改善点		
・ 家庭で自主学習を行う割合を増加させるために、教材の精選や家庭との協力を図る。 ・ 習熟度別授業の内容の精選観点別で評価をするための評価材料（小テストや補助教材）や授業時の観察の方法などを工夫していく。		

< 理 科 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗 状況
取組内容①【 基礎学力の定着 】 身の回りの事象を、科学的に理解するため、基礎学力の向上を図る。		B
指標	・定期テスト、実力テストにおける平均正答率3割以下の生徒を、いずれの学年も平成24年度より減少させる。	
取組内容②【 授業内容の改善 】 視聴覚教材を積極的に活用する。		C
指標	・視聴覚教材を積極的に取り入れ、よりわかりやすい授業を展開し、生徒アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える生徒の割合を平成24年度より向上させる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について 30%未満の生徒の変動は、現2年生では増加傾向、現3年生では減少傾向にあるが、学習している領域によって難易度に違いがあり、どちらともいえない状況にある。 【取組内容】について ① 増加、減少、どちらともいえない状況にある。 来年度に向けて、平均正答率の向上をはかる必要がある。 ② 視聴覚教材を取り入れるように努力しているが、十分な活用ができていない。 機器の整備を急ぎ行い、次年度はより一層の活用をはかる必要がある。		
次年度への改善点		
・ 基本的な内容の理解をより徹底させる必要がある ・ 新理科室の整備が急務である。		

< 英 語 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【 基礎学力の定着 】 再テストや繰り返し練習をさせることで、基礎・基本の定着を図る。		B
指標 ・ 单元ごとに基礎文法テストおよび単語テストを行う。 ・ 習熟度別少人数授業や TT を定期的に実施することで、個に応じた学習支援を行う。		
取組内容②【 授業内容の改善 】 C-NET の活用や視聴覚教材を利用することで、英語への興味、関心を持たせる。		B
指標 ・ C-NET との TT を実施し、異文化への理解を深める。 ・ 視聴覚教材を利用し、授業を工夫する。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について 3 年生では減少しているが、1，2 年生では内容、文法ともに難しくなり、微増している。		
【取組内容】について ① 单元ごとに小テストを実施し、できなかったところを繰り返し練習させたり、再テストをすることで単語や基本文の定着を図った。また、本文の暗唱やインタビューテストも実施し、基本文の定着を図った。習熟度別授業の実施前と実施後の比較テストでは、平均点が 1 年生で 45 点から 53 点に、2 年生で 62 点から 67 点に、3 年生で 54 点から 72 点にそれぞれ変化した。また、30 点未満の生徒については、1 年生が 22 人から 13 人に、2 年生が 21 人から 10 人に、3 年生で 15 人から 7 人にそれぞれ減少した。 ② C-NET との TT は、各学年で実施し、英語を通して異文化への理解を深めた。その結果、1 年生では習熟度授業が自分のためになったと答えた生徒が 86 人で、そう思わないと答えた生徒は 0 人だった。2 年生では、英語の授業が楽しいと答えた生徒が 26 人から 41 人に増えている。		
次年度への改善点		
・ 小テストや暗唱、インタビューテストについては、ほとんどの生徒が事前に準備をし、ほぼ満点であるが、時間がたつと忘れてしまう生徒も多いので、適宜復習させる必要がある。 ・ C-NET との TT は各学年とも実施し、異文化への理解を深めた。今年度は小学校との関係で、週 1 回しかなく、授業の確保が難しかった。次年度は授業の確保に向けて、校内および小学校との調整をして、授業確保の工夫をしなければならない。 ・ 視聴覚教材の利用、デジタル教科書を活用した授業に取り組んでいく。		

< 音 楽 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【 基礎学力の定着 】 プリントや、授業の分かりやすさ。		A
指標	・プリントなどを使用して学習内容の要点を明確にし、復習を促す。 ・プリントと副教材に分かれていた学習内容をプリントにまとめ、学習活動の円滑化を図る。 ・音楽知識と実技を関連付け、実技を行う中で効果的に解説を加える。	
取組内容②【 授業内容の改善 】 教材を工夫することにより、音楽への興味関心を高める。		B
指標	・年2回以上研修等に参加し、生徒が興味・関心を持ちやすい教材を開発する。 ・授業の導入部では教材の提示方法を工夫する。 ・教材ごとに目標を明確にし、生徒が学習内容を正しく把握できるようにする。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について ① 一学期定期テストの正答率3割以下の生徒を、全学年で10%減少させたため達成できた。 ただし、二学期は2年生のみ定期テストを実施したが、正答率3割以下の生徒数は変わらなかった。 ② 1年生でのみ一学期末にアンケートを実施。「授業で分りにくいことがある」と回答した生徒数は減少した。2、3年生ではアンケートを実施していない。 【取組内容】について ① プリントに番号をつけ、副教材をプリント一つにまとめたことで、提出率・完成度が高くなった。 ② 夏休みを利用し、研修会に参加した。前年度と同じ教材でも、全ての教材について改善点を設けて指導した。		
次年度への改善点		
・ 音楽科の研修に一回しか参加できなかったため、夏休み等を利用して回数を増やす。 ・ 定期テストの点数や、アンケートの数値では分からないが、実際授業を行って観察していると、寝ていたり話を聞いていないなど授業に集中できない生徒がいる。 ・ 授業内容の改善だけでなく、授業態度への指導が必要だと感じるが、週一回の授業しかないため、学校全体として取り組む必要がある。		

< 美 術 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【 基礎学力の定着 】 ・ 自主学習や振り返り学習ができるようなプリントを活用し、基礎学力の定着を図る。		A
指標	・ 下描きや授業のまとめを理解できるようなプリントを活用する。 ・ 授業の中で振り返りや学習確認をしながら繰り返し学習できる工夫をする。 ・ 平成24年度より向上させるため定期テストなどを活用させ向上させる。	
取組内容②【 授業内容の改善 】 発問や板書、視覚的な資料を工夫して、興味関心を持たせる。		
指標	・ 教科書資料や写真など、視覚的に印象付けるように工夫する。 ・ 創作活動の注意点やポイントを理解させるプリントを作成する。 ・ 授業ごとの点検票を作成し、各自で自己評価・まとめをさせる。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【取組内容】について ① 教科書に準じたカリキュラムで授業をすすめながら生徒の学習状況を進めた。 各学年系統立てた内容で進めた。 ② 鑑賞講義や作品制作の説明の中で発問させたりしながら考え、創作の意味や注意点を確認しながら進めた。		
次年度への改善点		
・ 学年によって、授業改善を考えると共に今年度の教材計画を定着させながら進めていきたい。 ・ 点検票を活用しながら、振り返る時間を作っていきたい。 ・ 有効に時間が活用できるよう授業の改善を図る。		

< 技術家庭 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（技術・家庭）		進捗状況
取組内容①【基礎学力の向上】 プリント学習により基礎知識の習得を図る。		B
指標・プリント作成において、いずれの学年もC評価を平成24年度より10%減少させる。 ・定期テストの基礎問題において、いずれの学年も平均正答率を平成24年度より10%上げる。		
取組内容②【技術の向上】 実習により基礎技術の定着を図る。		A
指標・作品制作において、未完成率を平成24年度より10%減少させる。 ・作品制作において、いずれの学年もC評価を平成24年度より10%減少させる。		
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
<p>【年度目標】について</p> <p>3割以下の生徒は微増しているが、分野の違いや難易度に差があるため、どちらともいえない。特に、1・2年は初めて技術分野と家庭科分野の単独ではなく、両分野からの出題したため範囲が広がったことも影響していると思われる。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① プリントなどの提出物について、作成の仕方などの細やかな指導を心掛け、低い評価が少なくなってきた。重要事項については復習確認をしながら取り組むことにより、基礎・基本的事項の定着に努めている。</p> <p>② 実習における作品制作については、各学年ともにほぼ全員が完成させることができた。今後の実習の取組においても、わかりやすい制作説明を心掛け、完成度の高い作品ができるような指導を継続していく。</p>		
次年度への改善点		
<p>・ 基礎・基本的事項の定着を図るために、今後も授業の取り組みを工夫していく。</p> <p>・ 作品制作における技術の向上を図るために、より完成度の高い作品ができるような指導を継続していく。</p> <p>・ 目標に準拠した評価については、特に技術と家庭科両分野の適切な総合評価方法を継続して熟考を重ね、決定していく必要がある。</p>		

大阪市立横堤中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の向上】 ① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%にする。（カリキュラム改革関連） ② 保護者アンケートにおける「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を平成 24 年度より向上させる。（マネジメント改革関連）	A

< 人権・特別支援教育委員会 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（道徳）	進捗状況
取組内容①【 道徳教育の推進 】 各学年で計画的に副教材を活用した道徳の授業を実施し、社会性の向上を促す。 指標 ・人権・特別支援教育委員会において、各学年の 1 年間の取組をまとめる。	B
取組内容②【 道徳教育の推進 】 豊かな体験活動の推進により、生徒一人ひとりの感性や情操を育む。 指標 ・プロの芸術家やトップアスリート、企業、大学や地域・関係諸機関と連携した出前授業や講演会等の体験活動を実施する。	A
取組内容③【 特別支援教育の充実 】 ソーシャルスキルの獲得により、集団や社会への適応力を高める。 指標 ・特別支援学級での自立訓練の中でソーシャルスキルトレーニングを活用する。 ・通常学級での授業や行事などで、他の生徒との交流の機会を多く持つ。 ・教職員の特別支援教育に関する校内研修会を実施する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ① 生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答えた生徒は約 71%であった。 特に、大学教授による出前授業や、進路の学習で様々な職種の方の講演を聞く機会を設けたことにより、生徒の意識に変化がみられた。 ② 保護者アンケートにおける「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合は、前年度より約 17%向上し、約 80%であった。今後も継続して、細やかな指導をしていく。	
【取組内容】について ① 年度初めに各学年で道徳人権教育の年間計画を立て、実態に合わせて計画的に取り組んでいる。また、より活発に取り組んでいくために、道徳教育の校内研修を行った。道徳教育について共通理解を図り、また各学年で副教材を活用した道徳の授業案を作成した。今後の道徳の授業で取り組んでいくことを計画している。	

<p>② トップアスリートや大学教授による出前授業、企業の方の講演や地域体験学習による地域の方々との交流などの体験活動を計画的に行った。それらの活動を通して、感性や情操を育む機会を多く持つことができた。</p> <p>③ 学校生活において集団適応や社会性の獲得を目的として、ソーシャルスキルトレーニングの活用や授業・行事などの交流学习の中で指導をし、自立のための支援をすることができた。校内研修については特別支援学級生徒および配慮を要する生徒理解について、年度当初に実施した。</p>
次年度への改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度も継続して、より活発な道徳教育を行っていくために校内研修を行い、1 年間の具体的な取り組みを確認し実践していく。 ・ 今後も、生徒一人ひとりの感性や情操を育ていけるよう、体験活動の機会を多く設ける。 ・ 発達障がいについてなど、テーマを決めた特別支援教育の校内研修会も行い生徒理解を深める。

< 生活指導部 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 道徳教育の推進 】</p> <p>横堤中学校生徒 10 カ条を基に、基本的生活習慣と道徳心の育成に取り組む。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校生活全体で 10 カ条を意識し、指導を行う。 ・ 学期ごとに学校生活を振り返らせ、それぞれの項目について「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒を全体の 7 割以上にする。 	A
<p>取組内容②【 道徳教育の推進 】</p> <p>時間を守り、余裕をもって行動する意識を高める。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登校時に予鈴遅刻チェックを行い、前年度(1 日平均 3.1 名)より予鈴遅刻者数を減らす。 ・ チャイム着席を徹底し、学期に 1 回強化週間を行う。 	A
<p>取組内容③【 道徳教育の推進 】</p> <p>「あいさつ」が習慣付くよう指導する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月ごとに学校生活を振り返らせ、全体の 8 割の生徒が達成できるようにする。 	B
<p>取組内容④【 問題行動への対応 】</p> <p>教職員間の共通理解を図り、チーム指導を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日の情報交換を密に行い、生活指導部へ情報の集約を行う。 ・ 月に 1 度、学年・公務分掌を超えた「生活指導ミーティング」を実施し、生徒の実態把握、問題行動への対策・予防策の共通理解を図る。 	A
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>① 生徒アンケートの「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える生徒が 70%以上いた。</p> <p>② 保護者アンケートの「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答える保護者の割合が 80.4%だった。 (昨年度 63.3%)</p>	

【取組内容】について	
① 全校集会では毎回講話を行い、生徒に基本的な生活習慣を身に付けられるよう、促すような指導を行った。 生徒アンケートは、各学期ごとに実施し、各項目において「できた」、「どちらかといえばできた」と答える生徒が7割以上いた。	
② 学校全体として教員が休み時間に各フロアに立つなどの巡視体制をととのえ、様々な場面でチャイム着席を促すよう指導した。また、朝の予鈴遅刻者にはイエローカードを渡すなどの登校指導を行ったことで、昨年度より予鈴遅刻数は減少した。 予鈴遅刻年間平均 2.7 人（昨年度 3.1 人）	
③ 朝の登校時や日々の学校生活において、通年で挨拶を促すよう指導した結果、生徒アンケートの「大きな声で挨拶をする」の項目で7割以上の生徒が「できている」と答えた。	
④ 生活指導にかかわる問題は、毎日の職員朝礼で報告するとともに、月1回生活指導ミーティングを実施することで、学年をこえての共通理解を図っている。	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「横堤中学校生徒 10 カ条」の指導法について研究し、今後の生徒指導に役立てていく。また、生徒・保護者に発信する機会を増やし、さらなる定着を図る。 ・ 今後は学期始めや定期的な巡視体制を整え、生徒に「時間を守る」ことを意識させ、チャイム着席の徹底を図っていく。 ・ 学年をこえての情報交換を密にし、共通理解を図るとともに校内の生活指導体制の確立に努める。 	

< 健康教育部 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【 基本的生活習慣の定着 】 早寝・早起き・朝ごはんの習慣を軸に規則正しい生活を意識する。		A
指標	・「早寝・早起き・朝ごはん」を生活の中で意識できるように、保健委員会や学活で学習を進める。 ・月ごとに学校生活を振り返らせる生徒アンケートを行うことによって、規則正しい生活習慣を意識づける。	
取組内容②【 環境美化の向上 】 清掃活動に取り組み、学習環境を整える。		B
指標	・毎日の清掃活動を通じ、教室や廊下等の美化に取り組む。 ・毎月、美化委員会が清掃点検を行う。 ・月ごとに学校生活を振り返らせる生徒アンケートを行うことによって、清掃活動に取り組む意識を高める。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について 保護者アンケートにおける「学校は、基本的生活習慣が身につくよう指導している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合が平成24年度では63.3%であったが、今年度は80.4%と大幅に増加している。		

【取組内容】について	
① 基本的な生活習慣について、集会や「横中だより」「保健だより」「食育通信」などを通じて啓発していった。 生徒アンケート調査において、1学期当初と3学期を比較・分析すると、1年生で夜更かしをしなくなった生徒が増えている。これは中学校生活において部活動が始まり、体調管理に対する意識がでてきたためと思われる。 また、「朝食を毎日食べている」生徒が、3年生では66%から82%に大幅に増え、学力と朝食の関係の話や自らの体調を考えて、規則正しい食生活を心がけるようになってきたからだと思われる。	
② 美化委員会による清掃点検、ポスター掲示、美化委員会での清掃活動等を行った。 生徒アンケートでは、各学年とも「清掃をしっかり行い、校内美化に努める」ことが「どちらかといえばできなかった」「できなかった」という生徒が減っている。全体的に規範意識が高まり、係活動などにも積極的に取り組んでいることが大きい。	
次年度への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の保護者アンケートと比較して、大幅に改善でき、集会や「たより」の啓発が効果的であったので、引き続き行っていくとともに、委員会活動を利用して生徒が発表するなど、さらに取り組みを進めていく。 ・ 教室での古紙回収も定着してきたが、回収ボックスに入れる時のマナーを徹底させて、スムーズに回収していく。 	

< 進路指導委員会 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【 キャリア教育の推進 】 発達段階に応じた体系的・系統的なキャリア教育に取り組む。		A
指標	・ 職業講話、職場体験、進路学習等、実践的・体験的な活動に取り組む。 ・ 保護者、地域や専門的な指導者と連携した体験活動に取り組む。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について 1学期末のアンケートの結果では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒が50%弱であった。進路を本格的に考える時期にあたる2学期以降からは、自主的に将来や、目標・指標となるものを考えるよう働きかけている。		
【取組内容】 ① 各学年とも計画通り実施できた。 1学期末と3学期（1月末）のアンケート結果を比較すると、「将来の夢や目標を持っていますか」については、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒が50%弱から76%に向上し、「進路について自主的に考えている。（含む、どちらかといえば）」については、56%から86%に向上した。 進路指導に関しては、生徒や保護者に進路だよりや進路説明会（第1回:6/22、第2回:11/16）を実施し情報を発信提供を行い、現在最終進路決定に向けて取り組んでいる。		
今後への改善点		
・ 卒業まで、進路と、自分の夢・目標を更に意識づけられるよう働きかける。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 特別活動 】</p> <p>仲間を知り、大切にするための班活動を推進する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての学級で班活動に取り組む。(昼食時の実施状況) ・学年通信や学級通信を発行し、学年や学級の状況や課題について理解することができるようにする。 ・生徒アンケートで、「仲間と気持ちよく生活できている」の項目において、「できている」「どちらかといえばできている」と回答する生徒の割合を7割以上にする。 	B
<p>取組内容②【 基本的生活習慣の育成 】</p> <p>時間やきまりを守らせる指導を徹底する。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横堤中学校10ヶ条を意識できるように日常的に指導する。 ・生徒アンケートで、「きまりを守っている」の項目に対する回答において、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する生徒の割合を8割以上にする。 ・朝の遅刻を通年で1パーセント以下にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>1年においては、今年度より3学期に「職業講話」を含めた総合的な学習として「進路学習」を始めた。様々な職業の方からお話を伺い、また興味のある職業について調べる中で、人生を見通した進路選択ができるように促していている。一方、保護者アンケートからもわかるように、生活習慣については、身についていないとの回答が6%もあり、他学年と比較しても高い数値であった。学年通信などを利用し、学校としても継続的に発信していきたい。</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 学年通信は毎月発行し、生徒の意見やよいところを伝えるようにした。その結果、保護者アンケートの「教育活動の様子を積極的に発信している」の項目において、肯定的な意見が86.7%であった。また、各学級での教育相談、行事への取組や日々の指導の結果、生徒アンケートにおいて、「仲間とともに喜び、共感できる」の項目において「できた」と答えた生徒が、1学期は51.6%だったものが、2学期では56.7%と増加した。「いじめを許さない」の項目においても「できた」と答えた生徒は1学期は31.3%だったものが2学期では41.5%、3学期では58%と増加した。保護者アンケートの「お子様は楽しんで学校に通っている」という項目でも肯定的な意見が92.8%もあった。年間の取組を通じて生徒間のつながりが深まり、相互理解も深まったと考えられる。今後も継続して取り組む。</p> <p>② 生徒アンケートの「時間を守り、遅刻ゼロにする」の項目において「できなかった」と答えた生徒が、1学期は4.7%だったが、2学期では3.1%と減少した。休み時間に巡視を行い、チャイムを守る指導も継続的に行ってきたことが効果的であったと考える。学年生徒会では各月の学年目標を10カ条と同じく設定し、月ごとに方針を決めて行動させてきたこともあり、12月は遅刻ゼロへの取り組みを行った。その結果、生徒が相互に声掛けをする姿もあった。更に道徳の時間にも10カ条と連動した内容を学習させ、生徒の意識向上を図った。3学期は7%と増加しているので、今後も生徒が自主的に行動できるよう、促していく。</p>	

今後への改善点
<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣や家庭学習が定着するための取組をさらに進めていく。

< 2 年 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【 進路指導 】</p> <p>将来の夢や目標について考えさせる。</p> <hr/> <p>指標 ・ 職場体験を通じて、将来の夢や目標について考えさせる。</p>	B
<p>取組内容②【 基本的な生活習慣の育成 】</p> <p>基本的な生活習慣を身につけさせる。</p> <hr/> <p>指標 ・ 遅刻の少ない状況を、昨年度と同じ状況で維持していく。</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>【年度目標】について</p> <p>【取組内容】について</p> <p>① 多くの生徒が、職場体験学習を通じて働くことの意義について考える機会を得ることができた。しかし、一部に取り組む姿勢や言葉遣いについて、注意を受けた生徒もあり学校で指導をする場面があった。また、各クラスで職業体験のまとめを冊子にして、共有化を図った。</p> <p>② 少数の生徒を除いて、遅刻 0 の状況が続いている。</p> <p>この状況が続くように継続的に指導していく。</p>	
今後への改善点	
<ul style="list-style-type: none"> 社会における基本的なマナーについて、日常生活の中で実践していく必要がある。 生徒数の増加に対応するため、事業所数を増やす必要がある。 少数の遅刻しがちな生徒について、個別に指導し改善を促していく必要がある。 時間を守り、チャイムで着席するように促していく必要がある。 	

< 3 年 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（3年）	進捗状況
<p>取組内容 【 進路指導 】</p> <p>将来の夢や目標やについて考えさせる。</p> <hr/> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路についての取り組み等の学習を通じて、将来の夢や目標について考えさせ、生徒アンケートにおける「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を7割以上にする。 	A
<p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年集会、学年行事、出前授業等の機会を中心に、生徒が将来について考えられるように取り組んでいる。 ・ 9月に大阪市立大、関西大学から教授を招いて出前授業を実施し、また、菅公学生服株式会社人事課から講師を招き、「社会人の心得セミナー」と題し、進路講話を実施した。事後アンケートの「将来の進路を考えるきっかけになりましたか」の項目で、出前授業では6割、進路講話で8割の生徒が肯定的な回答を示した。 ・ 1学期末の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、アンケートの結果では、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒は50%弱であったが、3学期（1月末）では76%に向上した。また、別の項目の「進路について自主的に考えている。（含む、どちらかといえば）」との質問では、56%から86%に向上していることから、多くの生徒が、進路や夢・目標を考えることができるようになっている。以上のことから、目標は想定以上に達成できたと考える。 	
<p style="text-align: center;">次年度への改善点</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業まで、進路と自分の夢・目標を更に意識づけられるようはたらきかける。 	

大阪市立横堤中学校 平成 25 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ① 各学年の体力テストの全種目の平均の記録を平成 24 年度より向上させる。（カリキュラム改革関連） ② 生徒アンケートにおける「運動やスポーツ、体育的行事に積極的に活動している」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 70%にする。（カリキュラム改革関連）	B

< 保健体育科・体育行事委員会 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【体育科の授業の充実】 バランスのとれた基礎体力の向上 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・持久力向上を目指し、20mシャトルランを春 1 回、冬に 1 回測定し、全体の平均を 5 回以上上げる。 ・泳力向上を目指し、クロール、平泳ぎで 25m を完泳できる生徒を 8 割以上、50m を完泳できる生徒を 7 割以上にする。 	B
取組内容②【体育科の授業の充実】 体育的行事の活性化 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会を振り返り、「積極的に参加できた」「目標が達成できた」などの項目について「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答える生徒を全体の 8 割以上にする。 ・トップアスリートや専門的な技術指導者による実技講習会を実施し、子どもの運動に対する関心、意欲を高め、講習会を振り返り「楽しかった」「興味がわいた」などと答える生徒を 8 割以上にする。 	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標】について ① 男子では、本校の今年度の体力調査の結果と昨年度を比較すると「握力」「長座体前屈」「50m 走」で上回ったが、他の 5 種目で下回り、合計得点でも 0.7 ポイント下回った。また、全国平均との比較では、「握力」「50m 走」では上回ったが、他の 6 種目で下回り、合計得点でも 0.7 ポイント下回った。女子では、昨年度と比較すると「上体起こし」「反復横跳び」「20m シャトルラン」「50m 走」の 4 種目で上回り、体力合計点は変わりなかった。また、全国平均との比較では、「握力」「上体起こし」「反復横跳び」「20m シャトルラン」「50m 走」の 5 種目で上回り、体力合計得点でも 1.3 ポイント上回った。 ② 6 月に実施した運動会において、体育委員を中心とした体制を組み、生徒が主体的に活動できるよう促し、自主性が身についた。生徒アンケートでは、「積極的に参加できた（90.9%）」、「目標が達成できた（90.2%）」と答えた。	

【取組内容】について

- ・ 泳力向上を目指し、今年度の授業では長い距離を泳げるようにするため、ビートバンを使用し足の力をつく指導を心がけた結果、クロール、平泳ぎで 25m 完泳できた生徒は 9 割以上、50m 完泳できた生徒に関しては、記録を測定できなかったため把握できていない。
- ・ 持久力向上を目指し、各学年、春と冬に 1 回ずつ 20m シャトルランを実施した。春冬の記録を比較すると、男子は 1, 3 年生ともに 1 回ずつ上がり、2 年生は 11 回も上がった。女子は、1 年生は 3 回上がり、2, 3 年生は 5～7 回下がる結果となった。
- ・ 関西大学教授を講師に招いて、「正しいウォーキング、ランニングフォーム、無駄のない身体の使い方」というテーマ学習し、生徒アンケートでは「授業に興味を持った (84%)」、「これからの将来に役立つ (91%)」と答えた。また、シンクロナイズドスイミング日本代表の巽樹理さんを講師に招いて、水泳の実技指導を実施し、生徒アンケートでは、「楽しかった (85%)」、「興味がわいた (54%)」と答えた。

次年度への改善点

- ・ バランスの取れた基礎体力の向上に向けて、補強運動や授業工夫の見直しを図りたい。
- ・ 今年度の体力結果と全国平均を比較すると、男女とも「立ち幅跳び」「ボール投げ」では下回り、大きく差があった。来年度は「跳び方」「投げ方」の指導に重点を置き、「跳躍力」「投力」の向上を目指したい。
- ・ 体育的行事の拡充を図り、活性化に向けた取り組みを工夫する。

< 生活指導部 >

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【特別活動】 横堤中学校部活動8カ条を基に、生徒の個性・社会性・自主性の育成に取り組む。		A
指標	・部活動8カ条と各部活動のスローガン（目標）を基に、部活動経営を行う。 ・学期ごとに部活動について振り返り、それぞれの項目について「できた」「どちらかといえばできた」と答える生徒を全体の8割以上にする。 ・部活動通信を発行し、それぞれの部活動の様子を発信する。	
取組内容②【校種間・学校間連携】 小学生との部活動交流を通して、中学生として主体的に動ける生徒を育成する。		
指標	・放課後を利用し、部活動の出前体験などの交流を行う。 ・中学校施設を開放し、小学生に活動の場を提供する。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析		
【年度目標】について		
【取組内容】について		
<ul style="list-style-type: none">・スローガンの作成など、年度当初に各部活動で目標を設定し、生徒の自主性を尊重しながら活動させた。・部活動通信を発行し、部活動の様子や大会結果、次の大会の目標など、各部活動の情報交換をおこなった。また、顧問会議もこれまでに2回実施し、長期休暇の部活動の様子などの情報を交換した。・12月には、生徒会執行部と部活動の部長が中心となって、小学校にて「中学校紹介」を実施した。小学生アンケート結果から、中学校のことが「良かった」「わりと良かった」と答える小学生が98.2%いた。・1月に小学生を対象とした「部活動体験」を実施した。小学生アンケート結果から、「良かった」と答える生徒が87.5%いた。		
次年度への改善点		
<ul style="list-style-type: none">・生徒たちが主体的に活動できるよう促し、生徒の自主性を引き出せるよう体制を整えていきたい。・学期ごとに複数回、部活動顧問会議を実施し、情報交換を密にして、学校全体で部活動を活性化させ、充実した活動が行えるようにしていきたい。・小中連携の「中学校紹介」「部活動体験」を引き続き実施し、交流を深めていきたい。		